

1. 宮城県

仙台市産科セミオープンシステム診療マニュアル

仙台市産科セミオープンシステム 診療マニュアル(第1版)



平成18年7月

診療マニュアル発刊に当たって

周産期医療の現状と将来を案じ、仙台産婦人科医会の産科オープン化構想を仙台市医師会が事業の一つに取上げて頂いたのを機に、古賀・小澤先生と共に平成15年3月に静岡県西部浜松医療センターを訪れた。その後勤務医・開業医の意識調査や各基幹病院へ趣旨説明を行ったが総論賛成各論反対の状況が続いた。

厚生労働科学研究の中の「地域における分娩施設の適正化に関する研究」の班長に岡村教授が就任されて局面が動き出し、また周産期医療施設オープン化モデル事業に仙台赤十字病院が指定され加速度的に産科セミオープンシステムへの準備が稼動し始めた。

そしてクリティカルパスや契約書、実施要綱などが検討され平成17年12月に市内の基幹病院6施設と仙台市医師会と契約を締結しスタートすることが出来た。

まだまだ改善すべきことが多いがこのシステムを大事に大きく育て、これによって周産期医療の環境が改善され安全な分娩と、産科の勤務医が激務から解放され余裕を持って仕事や研究に打ち込めるようになることを願っている。

これまでは産科医の減少による過重労働、医師紛争そして中堅医師の退職による医師不足そして勤務医に更なる激務の悪循環、若手医師の産科拒否、産科崩壊などネガティブキャンペーンが張られてきたが、これからはこのセミオープン化を成功させ周産期医療の将来が明るく若手医師が夢と希望を持って参加できる分野であることをポジティブキャンペーンしていかなければならない。

宮城県周産期医療施設オープン病院化連絡協議会委員
仙台産婦人科医会顧問

鬼怒川博久